

令和8年度 第1回 学校運営協議会

コミュニティ・スクール（C・S）のモデル校3年目を迎えた令和8年度ですが、第1回の学校運営協議会を5月18日（月）に開催いたしました

1 開会行事

- ・委員12名について任命状を交付しました。今年度は12名の委員のうち、4名が新任です。また、事務を担当する地域協働活動推進員を当面は配置しないことも了承されました。
- ・学校長より、113名の新入生を迎え、令和8年度がスタートしたこと、カヌー部を始めとする各部活動が活躍していること、昨年度、群馬県知事より「公立高校の再編議」が提案されるなかでの本協議会の意義について、説明と挨拶がありました。



2 施設見学・学校運営方針の承認・資料説明

- ・昨年度の協議会のなかで、校内の様子がわからないと熟議ができないという指摘を踏まえ、5校時の授業の参観と、施設の見学を行いました。
- ・進行が会長に代わり、学校長より令和8年度の「学校運営方針」が提示され、委員の全会一致で承認されました。また、教頭より昨年度までの活動実績が、各担当教諭から今年度の活動目標の説明がありました。

3 熟議：「地域社会に求められる高校とはどんな学校か」

- ・3つの班に分かれ、上記のテーマについて熟議がありました。熟議とは話し合いの内容を一つに絞ることで成り立つ、熟慮した議論のことです。今回は熟慮の準備運動として「授業参観の感想」からスタートし、熟議をしていただきました。

●グループ①の熟議内容

- ・小学校を舞台とする学校間連携は、小学生が高校を身近に考えるよい機会となっている。
- ・自分が生徒として本校にいた頃は地域連携などはほとんどなかった。連携は単発ではなくて継続的に行ってほしい。同窓会としても応援したい。
- ・Uターン就職が話題になるが、「人とのつながり」の有無が大きい。せっかく、地域連携をしているのだから、もっとアピールできるよう改善したほうがよい。

●グループ②の熟議内容

- ・住民の立場からすると、挨拶をしてくれるのでまじめな生徒が多いという印象だが、「高校生と地域住民」との接点が特にないので、それ以上の印象が持てない。
- ・行政の立場からすると、各種のイベントに参加してくれるのでやる気のある生徒が多い印象。
- ・企業の立場からすると、高校生は企業の担い手として地域を支える存在。現在、人手不足で人材確保に苦慮しているが、地域連携を通じて地元企業と高校生の接点を確保し続けることが、最終的に地元に残ってくれる学生を増やすことにつながるのではないかと。

●グループ③の熟議内容

- ・高校生が小学校の講師を務める活動はありがたい。授業形式で、小中学生に高校の魅力を紹介できるとよいのではないかと。学校間連携は大切。
- ・実業高校なので、社会との接点を持ちやすいと思う。商工生による地域のイベントへの協力はありがたく、町内の認知度は高い。工業が盛んな地域だが、商業科にも期待している。
- ・いろいろ取り組んでいることは見学をして分かったが、専門分野での活動が目立っていない印象がある。「商工の強み」が見えづらく、もったいない。
- ・イベントの参加や作品の展示、など周知の方法について改善の余地があるのではないかと。

4 まとめ

- ・授業の様子や地域連携の取組に積極的に取り組んでいることはよくわかったが、それを第三者に伝える工夫がさらに必要。改善を期待したい。